

令和4年度第2回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：令和5年2月6日（月）10：00～12：00

場所：教育委員会室

議事 山口県教育振興基本計画の策定について

■資料1-1、1-2及び資料2-1、2-2に基づき事務局より説明

■主な意見

本県教育をめぐる状況について

- ・学校や教員によって、1人1台タブレット端末等の使い方に格差があることを心配する声がある。また、SNSやインターネットとの付き合い方など、情報モラルを向上させることが重要である。
- ・1人1台タブレット端末等を活用し、教育効果の高いデジタル教材の導入等により、教育の質を高めるとともに、家庭教育と学校教育を円滑につなぐクラウドシステムの導入検討が必要である。
- ・山口県ぐるみで子どもを育てることで、人材が育ち、地域づくりにも繋がっていくことから、“2 子どもと教員の状況”に、家庭や地域の教育の状況という視点が入ると良い。また、教員だけでなく職員も活躍しているため、“教職員”という表現にすると良い。
- ・いじめ・不登校等の問題が深刻化しており、その対策や“中1ギャップ”への対応、不登校特例校の設置の検討など、方向性をしっかりと反映してほしい。
- ・幼保小連携の視点から、子どもたちがスムーズに小学校に上がれるよう、各々がしっかりとお互いの様子を参観し、理解を深めていくことが重要である。

教育目標、目標達成に向けて

- ・“ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態にあること）”という概念を評価することは難しいため、“教育を通じたウェルビーイングの向上”ではなく、例えば“ウェルビーイングに資する教育の展開”などの表現に改めてはどうか。

施策の展開について

- ・教員の側、大人の側が子どもから学ぶという姿勢が大切であり、子どものすごさを引き出し、大人が子どもから学ぶ姿勢を見せることが、ひいては子どもたちの学びに向かう姿勢の向上に繋がると考えることから、そうした取組があると良い。
- ・大人が子どもたちの見本になれるよう、家庭教育への意識が高くない人にも行き届く取組を進めてほしい。
- ・ICTの活用にあたっては、誰のためにデジタル化を進めるのかということをしかりと意識し、現場とイメージを共有した上で、教育の質の向上に向けて取組を進めてほしい。

- ・計画の内容が非常に幅広く、現場の教員には相当な知識量が求められるとともに、一方で働き方改革の意識も必要となってくる。現場の教員が PDCA サイクルを回せるよう、マネジメント能力の育成に取り組んでほしい。
- ・施策を推進していくフレームの中に、“社会教育”の視点が見えにくくなっている。地域の協働学習や生涯学習を支援する社会教育の視点をしっかりと反映させてほしい。

その他

- ・生徒指導提要の改定を踏まえた対応を、内容に反映させてほしい。
- ・“STEAM 教育”の視点を反映させてほしい。
- ・計画の周知について、計画策定後は、学校の教員に計画を配布するのはもちろんだが、キッズ版や保護者版、地域版など、各関係者が計画が示す指針を自分事として意識できるような広報を行ってほしい。